

に既に配布されておりますが、地域がん診療拠点病院院内がん登録支援のホームページ (<http://jcdb.ncc.go.jp/>)でもPDFファイル形式でダウンロード可能です。定義集につきましては、定義付けが未解決な部分やさらに詳細な定義が必要な項目の見直し、必要な項目の追加などについて検討を行い、3年に1回をめぐりに改訂を行ってゆく方針です。

また、厚生科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「がん診療の質の向上に資する院内がん登録システムの在り方及びその普及に関する研究」班では、2003年度版の定義にそった院内がん登録システムの開発も行っております。特徴としましては、定義集2003年度版対応であること、地域がん診療拠点病院全国集計用フォーマットでのエクスポート機能を有していること、既存のデータのインポートも可能であること、

ICD-O-3の局在コードに対応する形態コードが表示され選択できること、データの論理チェック機能を備えている等があります。院内がん登録システム™を使用するコンピュータ側の要件としては、クロック速度300MHz以上のプロセッサを推奨、128MB以上のRAMを推奨、オペレーティングシステムは、Microsoft Windows XP、Microsoft Windows 2000、Me、98 (Second Edition)、98、NT、95のみ、インターネットブラウザはInternet Explorer 5.0以上、Internet Explorer 6.0を推奨(システム自体はブラウザを使用しませんが、この操作ガイドを表示するために必要)、その他のソフトウェア：Microsoft Excel 2000、Word 2000(システムはMicrosoft Officeを使用しませんが、本システムに付属するドキュメントを参照するために必要)です。

現在、システムのバグや使い勝手等をユーザから得るため評価版(版)をお配りしております。ご試用希望の際は、<http://jcdb.ncc.go.jp/>をご覧ください。折り返し、評価版をお送りさせていただきます。院内がん登録システム™のアップデートにつきましては、ご連絡頂きましたアドレス先や支援のページ等でお知らせする予定にしております。

地域がん診療拠点病院の院内がん登録に関連して、国立がんセンター研究所がん情報研究部では、地域がん登録の標準化にも取り組んでおります。(がん予防等健康科学総合研究事業「がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班)今後、地域がん診療拠点病院院内がん登録と地域がん登録の整合性を図りつつ、両者の標準化を図り、がん対策の基礎となるデータを提



図 院内がん登録システム™画面

供できるよう体制を整えてゆく方針です。なお、がん登録の支援、標準化に関する作業は、平成15年10月以後、現在の国立がんセンター研究所がん情報研究部のスタッフがそのままスライドし構成されます国立がんセンターがん予防検診研究センターがん情報部(仮称)で担当させて頂くこととなります。今後とも、がん登録の標準化と精度向上にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

*1 厚生科学研究費補助金効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「がん診療の質の向上に資する院内がん登録システムの在り方及びその普及に関する研究」班(主任研究者：山口直人)厚生科学研究費補助金「院内がん登録の標準化とがん予防面での活用に関する研究」班(主任研究者：津熊秀明)がん研究助成金「地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究」班(主任研究者：岡本直幸)がん研究助成金「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」班(主任研究者：津熊秀明)

第25回国際がん登録学会(IACR)報告と第26回会議ご案内

早田みどり(長崎研究所)
小山幸次郎(広島研究所)
放射線影響研究所

2003年6月16日から18日の3日間、ハワイのホノルルにて第25回国際がん登録学会が開催されました。学会場となったイリカイホテルはダイヤモンドヘッドを東の端に眺めるワイキキビーチの西の端に位置し、目の前はヨットハーバー、左手にはビーチが広がっているという絶好のロケーションにありました。多くの人が遊びに行くハワイだけあって、ビーチはもちろんの事、学会場前のプールも水着姿の人達でいつも賑わっていました。

SARSの影響を気にしながら参加しましたが、案の定、次回開催国の中国本土からは一人の参加者もなく、次回

開催地となる北京の紹介は、現在 WHO で仕事をしておられる中国人研究者がされました。前の週に北米地域がん登録協議会が開催された事もあり、例年以上に米国からの参加者が多かったものの、ヨーロッパやアフリカ、中南米諸国からの参加者は少なく、その反映が、ポスター発表が 50 余と昨年の半分以下と少なく、もの足りなさを感じました。日本からは、13 名が参加し、6 名がポスター発表をしました。毎夜のハワイアンショーを楽しんだり、各国からの参加者による講演を聞いたりと学会を満喫する事ができました。

講演は 10 のセッションから成り、盛りだくさんでした。その中で印象深かった内容についていくつかご紹介したいと思います。

冒頭の、Pacific Islanders and Indigenous Population のセッションでは、太平洋の島々におけるがん登録の実態が紹介されましたが、米国本土との精度格差が大きく、予算措置上の問題である事が報告されました。後で聞いた話では、今後は、適切な予算措置の下、インフラ整備がなされていくという事です。日本政府にも是非見習って欲しいものです。

Human Papilloma Virus, Cervical Cancer and Vaccines のセッションでは、HPV と子宮頸がんの関係がウイルスのタイプ別に詳細に示されました。最も関与が大きいとされる type16, 18 に対するワクチンが今臨床試験段階にあるという話は、子宮頸がん対策が急務となっているアフリカ・アジアなど発展途上国にとっては大きな朗報と思われました。

Migrants and Cancer のセッションでは、移民研究の有用性とそれから得られた知見の豊富さを再認識する事ができました。殊に、ハワイでは日系人を対象とする移民研究が盛んで、数世代を経てもなお原住民と移民のがん罹患率に差が見られるという話を興味深く聞きました。

筆者は、1998 年のアトランタ大会以来毎年この学会に参加していますが、欧米では国策として十分な資金援助の下にがん登録が行われ、がん登録から得られたデータがその国のがん対策に見事に反映されていることをいつも羨ましく思います。今回、フィンランドの Dr. Sankila の発表の中で、国民は等しく同レベルのがん医療を受ける権利を有するという思想に基づき、各地域ごとの生存率を比較し、地域差があれば問題点を臨床医と相談するという事が示されました。わが国でもがん医療の均てん化が叫ばれていますが、そのためには、医療の充実ばかりでなく、それをどうやって評価するのかという事を真

剣に考えなければならないと思います。

学会終了後、参加者ほぼ全員が昼食の席を囲みながら、理事長であるデンマークの Dr. Storm (英語の苦手な私でもつい笑ってしまうほど、話術が巧みな元外科医) によるポスター表彰ショー (これは必見です) を楽しみました。惜しくも 1 位の栄誉はオランダのグループにもついでにいかれましたが、阪大大学院 (保健学専攻) の杉山先生が見事 2 位を獲得されました。おめでとうございます。

(文責 早田みどり)

さて、次回の第 26 回国際がん登録学会は 2004 年 9 月 11 日から 13 日までの 3 日間、中国北京市で開催されます。今回の学会で紹介されたスライドによると、1960 年代には中国全土で 2 つしかなかった地域がん登録ですが、その数は年々増加し、1980 年代には 28、90 年代には 49 を数えました。さらに、昨年には、国レベルでがん登録を支援する National Center for Cancer Registry という組織が誕生しました。さらに発展していくことと思います。来年の会議では「発展途上国における地域がん登録の普及」と「世界におけるがん予防の充実」がテーマです。ぬけるように青いという北京の秋空をみながら、中国 4000 年の歴史に触れてみたいものです。(文責 小山幸次郎)

第 12 回総会研究会ならびに 実務者研修会・自由集会参加のご案内

藤田 学
福井社会保険病院

第 12 回地域がん登録全国協議会 総会・研究会を福井県国際交流会館で 2003 年 9 月 12 日 (金) (午前 9 時より) に開催致します。主題としては、がん登録で収集された貴重なデータを日常の診療、疫学的研究、行政にいかに関与するかの取り上げ「地域がん登録の利用」をテーマとしました。なお前日には、地域がん登録の精度向上のために必要と考えられる院内がん登録の整備に関して、実務者研修会・自由集会を開催致します。多数のご参加をお願い致します。ご案内申し上げます。

第 12 回総会研究会参加費 (会場費等): 3,000 円

実務者研修会・自由集会参加費 (資料代): 1,000 円

参加・詳細のお問合せは、下記の第 12 回地域がん登録全国協議会 総会研究会事務局へ

〒911-8511 福井県勝山市長山 2-6-21

福井社会保険病院内

TEL: 0779-88-8166 FAX: 0779-88-8167